

### 第3回森林再生実行会議 議事録(要約)

令和3年11月23日(火・祝)13:30~15:30

松本市役所 本庁舎 大会議室

(開会)

(香山)

3回目、どういう形に森林再生の話を進めていくのか具体的にしていきたい。

まず、前回の宿題について、事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

庁内の市民関わった会議において、森林及び自然環境とエネルギー等について出された意見を資料にて説明。

市内のキャンプ場及び遊歩道、都市公園の状況について報告。

(小山)

いろいろな会議で森林という文脈が出てくるのが少ない。

松くい虫対策を除けば、森林は市民の中で焦点が合わさっていないため距離が遠い。

目の前にある課題に対しあまり重大な意識はないが、基本構想2030市民会議のように長期を見据えた時、市民は課題に対して意識を持ちみんな考えるようになる。

森林再生会議では、目先より少し遠いところにターゲットに絞っていくと、幾つか方向性が見えてくると思う。

(三木)

基本構想2030市民会議の中で、森林に関わる事が述べられている事は重要だと思う。

中長期的にみて、森林と関わる松本市を作っていくことは、方向性として市民感覚からずれてはいないと感じた。

遊歩道マップを見ると松本市は地理的な構成で仕方はないが、全体的に場所がやや遠く、そこが市民と森林との距離を遠くしている要因だと思った。

(渡辺)

松本市の中長期を見据えた時、森林は外せないと思う。

もっと松本市の木の魅力や、日常に溶け込むような木の関わり方ができたらいい。

(香山)

松本にとって森林はあたり前の背景であって、松枯れのことを除くと森林とのふれあいはなかなかなく、森林は松本市に限らず一般の人には遠いものである。

キャンプが流行っているが、自然環境に親しむという点では、関わりたいという意識は上がっている。

遊歩道については、どのような人がどのような目的で利用しているのかわからないため、どこに市民との繋がりや接点があるかわからない。

(小山)

ほとんどの遊歩道は歩いたことがあるが、遊歩道の課題は、また歩こうと思う魅力的な遊歩道がないこと。

公共交通機関で行けるとところで、一番歩きやすいのが多分、上高地で、次は乗鞍ではないかと思うが、公共交通を使って歩けるところが限られている。

遊歩道として歩くには、厳しい道が多いところも課題だと思う。  
遊歩道を利用した観察会や公民館行事はあるが、森林が生かされているのかと考えると、森の中では近さがない。

(小山)

最近のキャンプの中で、野外ホテルのようなものは、森の中で夜を過ごし、次の日は車で移動するというように、森林で何かを体験することはなく、単にリゾートホテルが森の中に存在するという感覚で、自然との触れ合いという点では若干違和感を感じる。

(香山)

自然の中に行ったとしても、果たして自然やその森林と触れ合っているかどうか、そもそもキャンプ場や遊歩道にしても、そういうものが整備されていない。

(三木)

人がそこに入り込み、その中で目に付くことや、気にかかったことが、今後の森林再生市民会議のようなものを作る場合に具体的なニーズとして現れてくると思うので、入口は野外ホテルのようなものに対しても広く取ったほうがいい。その入口になれるかどうか大切だと思う。

(香山)

キャンプ場、遊歩道であれ施設があるということは最低限の安全性は確保されていると思う。  
遊歩道の維持管理で、市民が参加したところはあるか。

(事務局)

市民参加型で維持管理をしているかは把握していない。

(小山)

松本市内では、寿地区と岡田地区が活動を行っているかと思うし、本郷地区はかなりやっていると思う。

そういう地区で、特に遊歩道の整備を行ってきた地域は地区の皆さんが一生懸命関わっている部分があるのではないかと。

また、山の整備を行っている地区ではグループの皆さんがかなり頑張っており、当然行政も関わ

って案内板などの整備を行っているエリアは、場合によっては資金的なもので企業の支援を受けて行っているところもある。

そのような場所に、どういうふうにして、一般の方が入ってくると面白いのか考えてみる。

(三木)

森林再生に取り組むときに重要なことは、取り組み内容そのものではなく、取り組み方法である。

「森林を活かす自治体戦略」という本があり、全国のいろいろな市町村独自の取り組みを紹介している。

安曇野、塩尻、伊那など各自治体で独自に取り組んでいる事例等、情報を収集して、松本市の参考にしたほうがよい。

具体的な次の森林ビジョンの話が出てくるのは、実際に活動されている方からである。

これまで、松本市内で活動している市民に意見を伺ったが、一つは森林と深くかかわりのない市民の方は、次の森林についてのビジョンが出てこない。

実際に関わっている方からは、次世代の森林は、アカマツと広葉樹が半々くらいの森林であればいろいろ採取れるから楽しいだろうなどと意見があった。

森林ボランティアの方は高齢化により世代交代が課題と言っている。誰かが綺麗にしていかないと親しみやすい森林にはならないと心配している。

松枯れ対策をしたところは若い森林になる。市民が、そういうような森林と一緒に育てていけばいいのではないかと。

将来を展望するとその時、森林のことに中心になっていくのは、今の子どもたちである。その小さな松本市民たちにどういうものを提供できるかを考えていくべき。

伊那市の伊那谷フォレストカレッジのように、何かできそうな森林は、人を引き付ける。松本市もそういう場所になったら面白いのではないかと。

(香山)

伊那谷の森林の話が出たが、松本の森林も全然負けていないと思う。

(小山)

森林資源がまちづくりに活用されていないから松枯れが起きているということが、市民会議の中でうたわれたことが特徴的だった。

松枯れという言葉がまちづくりに繋がっている。基本構想の中で、松枯れが起きている現状は、豊富にある森林資源を自分たちが街づくりに生かし切れていないことが課題であるという語り方をしている。

それは、自分たちのまちづくりが森林から遠いということが如実に出てきている。

(香山)

森林が松枯れということをきっかけに動き始めている。松枯れ以外の森林でも木を伐採しているが、市民にはなぜ伐るのが伝わっていない気がする。

( 渡辺 )

そもそも伐採とは何か、木を伐ることに悪いイメージを持つ人がいる。伐採に対する認識が市民にどういうとらえ方をされているかと思う。

また、市民が松本で伐った木を使っているという意識はあまり感じられなく、食材と違って木材はどこの産地かという意識が薄い感じがする。

( 香山 )

市街地から見ると山は景色なので、誰が何をやっているか見えない状態である。

統計的な数字で出ると思うが松本で伐採された木がほとんど松本の中で使われていない。

県産材利用といわれているが、実際に長野県内の建築や家具木工であれ長野県のものはない。

松枯れで物凄い量のマツが切られて使い方が多々ある中で、それを一般の地域の人につなぐチャンネルがない。

市内の都市公園で伐採された木をどのように利用しているか把握しているか。

( 事務局 )

高木の剪定は市から委託しているが、全てをどのように処理しているか把握していない。

( 香山 )

日本全国で言えると思うが、公園の木や街路樹、庭木を伐採した場合、資源として捉えられておらず、概ね廃棄物として扱われる。それを救い出す活動も私はしている。これも、市民と森林が関わっていく一つのチャンネルになると思う。

( 小山 )

山奥だけではなく、街の緑もグリーンインフラの観点で、自分たちとの接点として見ていかないと森林再生に繋がらない気がする。

また、文化財指定樹木も落ち葉が苦情となったり、住宅の屋敷林が切られてしまうケースを見ると、森林とのつきあい方での課題が見える。この発想が森林再生の目指す姿に合致するかもしれない。

( 香山 )

街中の支障木の伐採という仕事が増えている。

松本のようなところは、都市の中に森林がある、あるいは森林の中に都市があるのが本来の姿だったと思うが、都市の森林はどんどん失われていっている。

市民参加の森林再生市民会議(仮称)を開催するにあたって、どういう形だったら参加しやすいか、どういう人が参加すべきなのか、どんな形を作ったらいいのかということオープンに議論していく段階に入っている。

( 三木 )

公募や森林所有者、産業界の代表を指名する方法もあるが、最近、取られる方法として無作為に抽出する方法もある。その場合、話が盛り上がるかなかなか難しいところである。

市民会議にはこれから森林を使っていく、例えば高校生だとか若い人達を入れるのはどうか。山岳フォーラムに参加して学んだ方が参加するのも面白い。

(香山)

森林づくりに市民が参加するという理想はあるものの、それに対しての市民の関心が低いので、どうすれば市民が参加する森林づくりができるか、そういった話になると思う。

(小山)

会議は会議室ではなく、森林の中で何か考えようというイベント的なものでもいいと思う。

その都度どこかの森へ行って、興味のある人たちが現場で話をすれば自分たちに何ができるかということに繋がり、何か前に進んでいくと思う。

(渡辺)

森と市民、人を繋げるためには、どうしたらよいかを考えているが、市民会議では市民が森林のことを自分ごととして考え、触れる時間を増やしていきたいと思う。

森林に関わりのある人たちだけではなく、高校生や大学生も含めて若い世代や飲食店など街の中心的人たちを巻き込んで一緒に会議を作っていけたらよいと思う。

(香山)

森林とは何か、何ができるか、市民の森林に対する基礎がないため、基礎の部分から作っていかないといけないと思う。

実行会議としても、昨年四賀で松枯れをテーマに開催したような場を作っていく必要があると思っている。

(渡辺)

会議室で会議をするのではなく、外に出て公園や観光地といったもっと人が集まるようなところで会議をすることも足を止めて聞いてもらうきっかけになると思う。

街のキーパーソンの方にも協力してもらうことで、そこに訪れた人たちが YouTube を見るきっかけになると思う。

(香山)

この会議の最終的な報告は何かしら作るが、そこで終わらせないための仕掛けはどんどんやるべき。会議の場所を変えるのもその中のひとつだと思う。

(三木)

そもそも市民会議は会議室の中ではなく現場でやる会議だと思いつつ同時に、招集されるような会議ではないという気がする。

市民それぞれが主体となって、山の中でアクティビティーをする中での会議であったり、催しの中で会議をやるような市民会議にしてほしい。

(香山)

そのような会議には進行役、ファシリテーターが必要だと思う。

(小山)

市への要望が非常に多いが、それを単純に叶えるということではなく、市は市民の自発的な行動に寄り添う形で進める形に変えることで、市としても説明しやすく価値があると思う。

市民自らが、こういうことをやりたいという意見を聞けるような会議になればいいと思う。

(香山)

担当課自体をもっとフィールドへ近づけ、市民と関わるような活動を積極的に行っていくとよいと思う。

街づくりのフロントとなっている人たちや、そこに出入りしている若い人たちは、これからの街づくりの担い手であり、そこに何かしら仕掛けを作っていく、と非常に面白いと思う。

(三木)

森林法が管轄するいわゆる森林だけでなく、身近な街路樹や保存樹木などを入り口としてまず樹木に興味をもっていただくために樹木を巡るためのマップをつくるなどして井戸を巡るマップと繋げていけば歴史を感じられ、市街地の中でも会議ができると思う。

(香山)

コロナにより2年連続でクラフトフェアが中止となった。来年度は松本市の森林について、クラフトフェアの中でやろうと今から声掛けをしたらどうか。木工の方や工務店の方と森林を繋ぐ場になればいいと思う。

(渡辺)

クラフトフェアには食器、家具、アクセサリーを作る作家がいて、市内外からも興味がある人たちが大勢見に来ている。

イベント以外でも木に触れられる人が今後も増えていけばいいと感じる。

(香山)

「木に触れる社会・木を使う社会」木を使う社会の仕組みを作ることを目指して仲間と活動している。

市民会議と言っても林業が大きな影響力を持っているので、林業の仕事をしている人を抜きにして考えて行くことはありえない。林業振興という部分を抜きに政策づくりや市民会議はないと思う。

林業と市民との間には距離があり、林業関係者や研究者が集まって会議をしても、市民目線でないと感じると思う。

森林所有者の共同組合である森林組合が関わることで、市民からの政策づくりになるのではという気がする。まずは、雑談から始めたい。

(小山)

林業者と研究者とは学会でも長年相容れない状態が続いている。

街づくりの人たちと山側の人たちをどうしたら結び付けられるかが悩みだが、林業や製材業で働いている人達も住民だから、まちづくりとコラボして繋げていくことができると思う。

(香山)

木を使う人が山に買いに行くという仕掛けを作るべきだと思う。

(渡辺)

林業関係の人たちは木材、丸太を目にすることは日常なこと。一般の方も木に触れる機会が増えたらいいと思う。

(香山)

これから先の松本市の街づくりには、いろいろなタイプの課題の中に、必ず森林・木材があり、やろうと思えばそこにどんどん入っていける。

森林があることはすごいことでそれを利用していくタイミングに来ている。今回の実行会議の取りまとめの中で、どう仕掛けて動かしていけるのか入れていきたい。

(小山)

今回出てきたキーワードのどれかは4回目、5回目の会議のどちらかでパイロットでやるべきだと思う。

時間的に厳しいと思うが、それをやらないことには多分答えにたどり着けないと思う。

(三木)

4回目では日程的に厳しいので、4回目では文章をつくる骨子を決めていく会議にすればいいのではないか。

(渡辺)

4回目と5回目の間に1回挟んで、最後にまとめに入るとしてはどうか。

(香山)

4回目と5回目の日程は決めてあるので、5回目の延長戦になるかもしれないが、4回目は今回とは違う場所で公開として、骨子みたいなところへ行けるのではないかと思う。

(事務局)

アルプス公園北側拡張部について、どんな整備や活用が必要かを検討する「アルプス公園自然活

用検討会議」を今年度改めて作り、会議が始まった。

実行会議の議題にも関係してくると思うので、情報提供させていただく。

グリーンインフラでは、松本駅・松本城・あがたの森の三角ラインは街中の緑化が必要であり、具体的に進めていきたいと考えている。

クラフトフェアにおいて、クラフトの皆さんと街づくりの人たちとがコラボした、森林との繋がりについて事務局も考えていきたい。

森林の関係は多岐に渡っており、役所の中でも情報共有ができていないので、総合戦略室で横の繋がりを担っていききたいと思う。

（事務局）

遊歩道の整備で市民との関りについて補足しますが、山里に近い遊歩道は、地元と地域住民の方が一緒に整備しているところもあるが、離れた場所の遊歩道は、委託にて整備している。

（閉会）